

平成 24 年 11 月 13 日

各 位

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長 中野吉晴

平成 25 年 3 月期第 2 四半期 決算短信発表にあたり

わが国経済は、欧州債務危機等の世界経済の減速懸念、円高の長期化、電力供給の制約など厳しい環境にあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界においては、個人消費に足元で弱い動きがみられる中、原材料の高騰等の影響があり、引き続き厳しい状況にあります。

このような経営環境の中、当社は、「雪印メグミルクグループ中期経営計画（平成 21 年度～平成 26 年度）」に掲げた「乳飲料」「ヨーグルト」「デザート」「ナチュラルチーズ」の 4 つのカテゴリーにおける「カテゴリー No. 1 戦略」を強力に推進するため、新商品の拡売および商品ブランドの強化に取組みました。

加えて、海老名工場における「ナチュレ 恵 megumi」の生産能力増強や大樹工場における「雪印北海道 100 さけるチーズ」の新棟完成と生産開始など戦略設備投資についても取組みをすすめました。

また、生乳・乳製品の需給逼迫に対応するとともに、課題やリスクに対してスピード感をもって対応してまいりました。

その結果、連結ベースでの売上高は 2,663 億円（前期比 103.0%）、営業利益は 85 億円（前期比 103.7%）となり、増収増益となりました。セグメント別の営業利益では、原料乳価格の値上げの影響などにより乳製品セグメントで前期を下回ったものの、飲料・デザート類セグメントでは、震災からの回復もあり、前期を上回りました。また、飼料・種苗セグメントでは、牧草・飼料作物種子の販売増加が寄与し前期を上回り、その他セグメントは前期並みとなりました。

「カテゴリー No. 1 戦略」においては、デザートが前期を下回ったものの、乳飲料、ヨーグルト、ナチュラルチーズの売上高は、前期を上回り、戦略設備投資も含め、着実に取組みの成果をあげており、下期以降も、取組みを推進してまいります。

この他、新商品の市場投入や消費者キャンペーンなどによる売上拡大、生乳・乳製品の需給逼迫および原料乳価格値上げへの対応にも取組み、通期の目標連結営業利益175億円の達成を目指してまいります。

中期経営計画の進捗状況につきましては、順調に取組みがすすんでおります。本年5月に公表いたしました協同乳業グループとの業務提携については、生産・物流・資材調達・営業の4部門を軸に、協力体制構築の検討を進め、関係をより緊密なものにするために、本日、資本・業務提携の合意に至りました。当社は協同乳業株式会社の普通株式発行済株式総数の20%にあたる約200万株を、平成24年度中を目処に取得し、更にスピード感をもって既存の枠組みを超えた協力体制を構築してまいります。

この他、よつ葉乳業グループとの共同取組、カテゴリーNo.1戦略、戦略設備投資、海外事業展開の取組みについても推進しており、競争力のある強い会社になるための事業構造改革は着実に進展しております。

厳しい経営環境は続く事が予測されますが、役職員一同、力を結集して、更なる成長にチャレンジしてまいります。

引き続き、コンプライアンスと品質管理の徹底を図り、CSR経営を積極的に推進してまいります。

今後とも、これまでと変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上